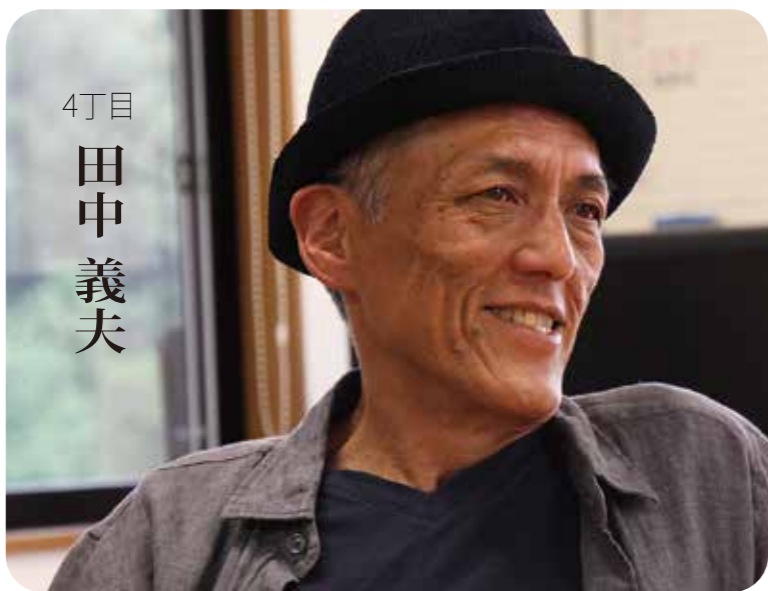


# 気になるフィオーレ喜連川人 Vol. 18



4丁目  
田中 義夫

## できるだけ 自分たちの力で。 みんなできつくる自治会

27年度自治会総会をもって新会長として承認を受けた田中義夫さん。就任時の、「みんなできつくる自治会をつくっていききたい。」という挨拶が印象的だ。インタビュー中は終始冗談をとばし親父ギャグも交え取材陣を楽しませてくれた。明るい性格はご本人曰く、元々持っているものではない。「根本の性格はまじめなんだけど、まじめだね。」と人から言われることが嫌い。面白味のない人間だと思われているようで、「生まれ育った山口から大阪へ就職を機に移り住み、商人気質の大阪で『物怖じしない』『人見知りしない』『性格を身につけた。大阪ではいかに面白いと言えるか。ウケてなんぼの世界だった。』周りの人を楽しませるのは人間関係に気を配る上での表現のひとつ。そんな風に気配りできるのも、根がまじめが故なのだ」と自ら納得できる。その後、何度かの転勤を経て40歳でドイツに赴任する。「家族4人何の当てもなく、言葉もわからない外国に移り住んだから、頼れるのは父

親である自分だけ。日本の生活では家族それぞれ自分の世界があつて、子どもたちは学校の友達と過ごすことがほとんどだった。でもそれもなくなり、買い物に行くにも私が連れて行かないと動けない。何かある度に『パパ、パパ』と頼られることが心地よかった。日本では朝早くから夜遅くまで仕事づめで子どもたちの顔を見ることがままならなかったのに。おかげで家族との絆は深まった。ある時「あんぱん食べたい。」という子どもたちのリクエストに応え、460キロも離れたデュッセルドルフまでアウトバーン(高速道路)を飛ばした！(デュッセルドルフは日本人が多く、日本の飲食企業も多く出店している。)なんと二時間半！距離もさることながら時間も規格外だ！頼られることが好き、という一面をドイツで発見した。今までもそう。それぞれの場所で新しい自分に出会ってきた。そんな田中さんの信条は『行雲流水』。空行く雲や流れる水のように、深く物事に執着しないで自然

の成り行きに任せて行動するた。とえだ。流れに逆らって身の丈に合わないことはしない。頼られることが好きな自分は、『身に降りかかったことはできる限りなんとかしたい。』と思う。しかし、できる以上のことは決してやらない。無理をせず、できなければやれる人にお願いし、つないでいく。それは社会の「コミュニティ」においても同じことだと田中さんは言う。「自治会で言うなら、フィオーレの中で解決できることはなるべく住んでいる自分たちの力で解決したい。それぞれ得意分野もできることも違うから、力を合わせればもっと他の大きなこともできるような気がする。」みんなで作っていく自治会、新会長を中心に助け合い、力を合わせて乗り越えていく。田中さんの目指すカタチがそこにある。もちろんそこには『楽しく』が加わる。自治会長としての手腕に留まらず大阪時代に鍛えた笑いのセンスも同時に問われることになるだろう(笑)

記事：大河原千晶

## 真言宗 東輪寺

花の香りに誘われて



所在地 さくら市鹿子畑1117



ハスの名所として、東輪寺は「東国花の寺百ヶ寺」の一つに数えられる。境内に入ると、たくさんの花に留まらず立派な木々に迎えられる、お寺らしい荘厳な雰囲気味わえる。東国花の寺は、関東一都六県の美しい花を咲かせる寺が集まり平成13年に結成されたそうだ。それを示



すピンクののぼりが、鹿子畑を通る県道25号の途中で目に入る。ハスが咲き誇るこれからの季節は早朝からカメラマンも多く訪れ、美しい花を狙ってシャッターを切る。7月中旬あたりからは珍しい夜咲き睡蓮も見られるらしい。住職から、欲しい方には睡蓮をお譲りしますよとの嬉しい声をいただいた。そのときはほんのお気持ち、お賽銭をはずませて…。



## 浄土宗 専念寺

七百余年前より受け継がれた鉄仏

所在地 さくら市喜連川3530



約 四百年前に開院された由緒正しき寺、専念寺。残念ながら歴史の中で三度の火災に遭い、重要な文献などはほとんど残っていないらしい。そんな中、火災で部分的に損傷しながらも形を留め、現在県の文化財に指定されているのが寺院の歴史よりも古い「鉄造阿弥陀如来」だ。その名の通りこの仏像は鉄でできており、木造や銅造が多い仏像の中では大変貴重である。



今は安置保護するために阿弥陀堂の中に納められているが、希望者が声をかけるといつでも開帳できるようだ。その他にも、ご本尊の阿弥陀如来坐像や喜連川藩で活躍した画家 牧野牧陵の墓など、見るものも多い。誰でも自由に撞いていいという、立派な鐘も魅力のひとつだ。

